

| | |
|-------------|--|
| モデル事業名 | 廃校再生による「ツナガリティー」創出モデル事業 |
| 活動団体名 | 新現役の会&農援隊 (シンゲンエキノカイ アンド ノウエンタイ) |
| ホームページ | http://gotofanclub.jp/ |
| 所属/ 担当者名 | 新現役の会&農援隊 / 濱口孝 gotofanclub@yahoo.co.jp |
| 連絡先 | 0959-73-0480 〒853-0054 長崎県五島市戸岐町1180 半泊分校内 |
| 活動地域 | 五島列島 (福江島) |

● 活動地域の概要

長崎県の廃校数の約30%、限界集落数の約60%が五島列島に集中！…

| 廃校の数 | 小学校 | 中学校 | 高校 | 合計 |
|-------|-----|-----|----|-----|
| 長崎県 | 102 | 41 | 10 | 153 |
| 五島市 | 20 | 6 | 0 | 26 |
| 新上五島町 | 10 | 5 | 0 | 15 |
| 小値賀町 | 6 | 1 | 0 | 7 |
| 合計 | 36 | 12 | 0 | 48 |

| 限界集落の数 | 平成18年 |
|--------|-------|
| 長崎県 | 119 |
| 五島市 | 49 |
| 新上五島町 | 17 |
| 小値賀町 | 5 |
| 合計 | 71 |

31.3%

59.6%

福江島・北端(戸岐半泊地域)の集落数は、私たちが移住するまで**4集落・計6世帯11人!**

- ・半泊(はんどまり) **4世帯7人**(限界集落=65歳以上50%超、漁師3世帯、製塩業1世帯)
- ・福見(ふくみ) **1世帯2人**(渡し船業1世帯)
- ・きびなご網代(きびなごあじろ) **1世帯2人**(サザエ採り業1世帯)
- ・間伏(まぶし) **0世帯0人** 消滅集落

半泊分校



大正九年開校、昭和四十六年鉄筋校舎落成。平成四年休校、平成十六年廃校。(本校は戸岐小学校で、平成十七年閉校、ピーク時昭和三十三年6学級257名在校)

五島列島

福江島



半泊集落全景



● 活動地域の課題

- ◆世界最速で高齢化社会に向っている日本。基礎的条件の厳しい島々を日本一多く抱く長崎県。長崎県の限界集落の半数以上が集中する五島列島。そして、そのリーディングアイランド福江島では人口流出と廃校出現が止まらない。
- ◆過疎化は「少子高齢化⇒休校・廃校⇒コミュニティー力低下⇒人口流出⇒休耕地増大⇒里山の崩壊」へと進行する。五島市においては官民共に有効な手立てを打てておらず、毎年1000人の人口流出が止まらない。抜本的な対策を構築していくことが緊急の課題である。
- ◆休校・廃校の数が年々増えていく中で、利活用対策が講じられず、朽ちていくばかりの母校の姿は痛々しいばかりだ。

● 活動の内容

(全体) **廃校再生は《先ずれば過疎を制する》重要な施策である。**廃校に多様な人材(じげもん・よそもん・まぜもん)が寄り集い、新たなツナガリティーを創出しながら、市民主体の「新たなる公」活動を推進。民間先行型「廃校再生策」を検証実験し、その成果と共に五島市に政策提言する。初年度(平成21年度)は、**半泊分校を『ビジターセンター化』**するためのソフトウェア(半泊三大事業=半泊スクール、半泊スライ、半泊フォーカス)を設計する。

(直近1年間の進捗など)

- 1) 2010年7月30日農水省広域連携・対流等推進交付金(2次募集)事業スタート。
- 2) 2010年9~10月「半泊スクール」を2回開催、子どもの参加人数はのべ「25名」。
- 3) 2010年12月半泊分校内のC a f eを半泊集落住民にお披露目・懇談。
- 4) 2010年10月~2011年3月まで生活給付金付「農業研修・秋版」を実施。5名研修中。

● 活動の成果

小冊子『記憶の里・五島』



半泊C a f eの開設



農業研修「秋」版の開催



・直近1年間の成果など

1) 2010年12月末JTB企画「着地型・五島の旅」の出発点として半泊集落が選定。

半泊分校がビジターセンター化！「祈り暮らす島」の旅の入り口になります。

2) 2011年3月末までにJTBのモニターツアーを実施。

半泊スクールで「カクレキリシタンによる教会集落の成り立ち」をガイドします。

3) 2010年12月24日長崎県地方振興部「がんばらんば長崎」交付金事業に応募。

JTBモニターツアー



Goto 廃School Project・・・廃校再生で新しい職場をつくります・・・

● 今後の課題及び展望

・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

■ 学校という公共施設は、廃校となっても依然「コミュニティ力」を持ち続けている「場」である。これを地域の「粗大ゴミ」や「廃墟」にしたまま放置しておくことは校区の景観に大きなダメージを与えるだけでなく、住民の精神衛生上にも大変なマイナスとなることは明らか。 廃校の利活用が過疎化の防波堤であるとの認識を広めたい。

・展望（今後の取組みや検討について記入）

■ 半泊分校再生のための三大事業「半泊スクール」「半泊ステイ」「半泊フォーカス」の設計を終え、2011年本格始動する。
■ 廃校長の雇用のため、農業研修⇒農業生産法人⇒契約栽培⇒アンテナショップ⇒五島（福江島）の農産物のブランド化を推進し、五島列島ファンクラブの事業計画（会員1万人、1億5千万円目標）を5年以内に実現する。

● 大丈夫村！宣言・・・

五島列島ファンと共に、限界集落を大丈夫村！にしていきたいと思います！！

少子高齢化が及ぼす社会的影響の中で、私たちが最も問題視していることは「第一次産業の担い手不足による環境破壊」です。百姓仕事は自然をつくるという言葉の通り、農家は単なる食料供給者であるにとどまらず、「里山の風景」「緑の景観」「美しい水辺」など都会の人々にとってはオアシスとも云える空間をも創造する主体者でもありました。一度人の手が入ったところ(森、田、畑)には人手を入れ続けていかなければなりません。私たちは、年齢の壁を超えた「生涯現役の姿」を敬い、人口の規模ではなく「暮らしの質を大切にする里山の暮らし」を尊び、「安心・安全、そして大丈夫村！づくり」をコンセプトとする田園ミュージアム構想を2006年夏より提唱してまいりました。今後も、この理想を掲げ、五島市・長崎県・国（国交省他）と協働・連携して半泊分校の【廃校再生モデル化】に邁進してまいります。・・・五島列島ファンクラブ設立趣意書より抜粋